

## アモス書

## 第一章

テコアの牧者のひとりであるアモスの言葉。これはユダの王ウジヤの世、イスラエルの王ヨアシの子ヤラベアムの世、地震の二年前に、彼がイスラエルについて示されたものである。

彼は言った、

「主はシオンからほえ、

エルサレムから声を出される。

牧者の牧場は嘆き、

カルメルの頂は枯れる」。

主はこう言われる、

「ダマスコの二つのとが、

四つのとがのために、

わたしはこれを罰してゆるさない。

これは彼らが鉄のすり板で、

ギレアデを踏みについたからである。

わたしはハザエルの家に火を送り、

ベネハダデのもろもろの宮殿を焼き滅ぼす。

わたしはダマスコの貫の木を砕き、

アベンの谷から住民を断ち、  
ベテエデンから王のつえをとる者を断つ。

スリヤの民はキルに捕えられて行く」と  
主は言われる。

主はこう言われる、

「ガザの二つのとが、

四つのとがのために、

わたしはこれを罰してゆるさない。

これは彼らが人々をことごとく捕えて行って、

エドムに渡したからである。

わたしはガザの石がきに火を送り、

そのもろもろの宮殿を焼き滅ぼす。

わたしはアシドドから住民を断ち、

アシケロンから王のつえをとる者を断つ。

わたしはまた手をかえしてエクロンを撃つ。

そして残ったペリシテびとも滅びる」と

主なる神は言われる。

主はこう言われる、

「ツロの二つのとが、

四つのとがのために、

わたしはこれを罰してゆるさない。

これは彼らが人々をことごとくエドムに渡し、

また兄弟の契約を心に留めなかったからである。

それゆえ、わたしはツロの石がきに火を送り、

そのもろもろの宮殿を焼き滅ぼす」。

二主はこう言われる、

「エドムの三つのとが、

四つのとがのために、

わたしはこれを罰してゆるさない。

これは彼がつるぎをもってその兄弟を追ひ、

全くあわれみの情を断ち、

常に怒って、人をかき裂き、

ながくその憤りを保ったからである。

三それゆえ、わたしはテマンに火を送り、

ボズラのもろもろの宮殿を焼き滅ぼす」。

三主はこう言われる、

「アンモンの人々の三つのとが、

四つのとがのために、

わたしはこれを罰してゆるさない。

これは彼らがその国境を広げるために、

ギレアデのはらんでいる女を

ひき裂いたからである。

四それゆえ、わたしはラバの石がきに火をはなち、

そのもろもろの宮殿を焼き滅ぼす。

これは戦いの日に、ときの声をもってせられ、

つむじ風の日に、暴風をもってせられる。

## 第

五彼らの王はそのつかさたちと共に捕えられて行く」と主は言われる。

## 二 章

「主はこう言われる、

「モアブの三つのとが、

四つのとがのために、

わたしはこれを罰してゆるさない。

これは彼がエドムの王の骨を焼いて

灰にしたからである。

二それゆえ、わたしはモアブに火を送り、

ケリオテのもろもろの宮殿を焼き滅ぼす。

モアブは騒ぎと、ときの声と、

ラツパの音の中に死ぬ。

三わたしはそのうちから、支配者を断ち、

そのすべてのつかさを彼と共に殺す」と

主は言われる。

四主はこう言われる、

「ユダの三つのとが、

四つのとがのために、

わたしはこれを罰してゆるさない。

これは彼らが主の律法を捨て、その定めを守らず、

その先祖たちが従い歩いた

偽りの物に惑わされたからである。

五それゆえ、わたしはユダに火を送り、

エルサレムのもろもろの宮殿を焼き滅ぼす」。

六 主はこう言われる、

「イスラエルの三つのとが、

四つのとがのために、

わたしはこれを罰してゆるさない。

これは彼らが正しい者を金のために売り、

貧しい者をくつ一足のために売るからである。

七 彼らは弱い者の頭を地のちりに踏みつけ、

苦しむ者の道をまげ、

また父子ともにひとりの女のところへ行つて、

わが聖なる名を汚す。

八 彼らはすべての祭壇のかたわらに

質に取った衣服を敷いて、その上に伏し、

罰金をもって得た酒を、その神の家で飲む。

九 さきにわたしはアモリびとを

彼らの前から滅ぼした。

これはその高きこと、香柏のごとく、

その強きこと、かしの木のようにであったが、

わたしはその上の実と、下の根とを滅ぼした。

一〇 わたしはまた、あなたがたを

エジプトの地から連れ上り、

四十年のあいだ荒野で、あなたがたを導き、

アモリびとの地を獲させた。

二 わたしはあなたがたの子らのうちから

預言者を起し、

あなたがたの若者のうちからナジルびとを起した。

イスラエルの人々よ、そうではないか」と

主は言われる。

三 「ところがあなたがたはナジルびとに酒を飲ませ、

預言者に命じて『預言するな』と言う。

四 見よ、わたしは麦束をいっぱい積んだ車が

物を圧するように、

あなたがたをその所で圧する。

五 速く走る者も逃げ場を失い、

強い者もその力をふるうことができず、

勇士もその命を救うことができない。

六 弓をとる者も立つことができず、

足早の者も自分を救うことができず、

馬に乗る者もその命を救うことができない。

七 勇士のうちの雄々しい心の者も

その日には裸で逃げる」と

主は言われる。

第三章 イスラエルの人々よ、

主があなたがたに向かって言われたこと、

わたしがエジプトの地から導き上った

全家に向かって言ったこの言葉を聞け。

三「地のもろもろのやからのうちで、わたしはただ、あなたがただけを知った。

それゆえ、わたしはあなたがたのもろもろの罪のため、あなたがたを罰する。

三ふたりの者がもし約束しなかったなら、一緒に歩くだろうか。

四ししがもし獲物がなかったなら、林の中でほえるだろうか。

若しししがもし物をつかまなかったなら、その穴から声を出すだろうか。

五もしわがなかったなら、鳥は地に張った網にかかるだろうか。

網にもし何もかからなかったなら、地からとびあがるだろうか。

六町でラツバが鳴ったなら、民は驚かないだろうか。

主がなされるのでなければ、町に災が起るだろうか。

七まことに主なる神は、そのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。

八ししがほえる、

だれが恐れないういられよう。主なる神が語られる、

だれが預言しないういられよう。

九アツスリヤにあるもろもろの宮殿、

エジプトの地にあるもろもろの宮殿に宣べて言え、

「サマリヤの山々に集まり、そのうちにある大いなる騒ぎと、その中で行われる暴虐とを見よ」と。

一〇主は言われる、

「彼らは正義を行うことを知らず、しえたけ取った物と奪い取った物とを、そのもろもろの宮殿にたくわえている」。

二それゆえ主なる神はこう言われる、

「敵がきて、この国を囲み、あなたの防備をあなたから取り除き、

あなたのもろもろの宮殿はかすめられる」。

三主はこう言われる、「羊飼がししの口から、羊の両足あるいは片耳を取り返すように、サマリヤに住むイスラエルの人々も、長いすのすみや、寝台の一部を携えて救われるであらう」。

三万軍の神、主なる神は言われる、

「聞け、そしてヤコブの家に証言せよ。わたしはイスラエルのもろもろのとがを罰する日にベテルの祭壇を罰する。」



## 第

その祭壇の角は折れて、地に落ちる。  
一五 わたしはまた冬の家と夏の家とを撃つ、  
象牙の家は滅び、大いなる家は消えうせる」と  
主は言われる。

## 四 章 「バシヤンの雌牛どもよ、

この言葉を聞け。

あなたがたはサマリヤの山におり、  
弱い者をしえたげ、貧しい者を圧迫し、  
またその主人に向かって、

『持つてきて、わたしたちに飲ませよ』と言う。

主なる神はご自分の聖なることによつて誓われた、  
見よ、あなたがたの上にこのような時が来る。

その時、人々はあなたがたをつり針にかけ、

あなたがたの残りの者を

魚つり針にかけて引いて行く。

三 あなたがたはおのおのまっすぐに

石がきの破れた所を出て、

ハルモンに追いやられる」と

主は言われる。

四 「あなたがたはベテルへ行つて罪を犯し、

ギルガルへ行つて、とがを増し加えよ。

朝ごとに、あなたがたの犠牲を携えて行け、

三日ごとに、あなたがたの十分の一を携えて行け。

五 種を入れたパンの感謝祭をささげ、

心よりの供え物をふれ示せ。

イスラエルの人々よ、

あなたがたはこのようにするのを好んでいる」と

主なる神は言われる。

六 「わたしはまた、あなたがたのすべての町で

あなたがたの歯を清くし、

あなたがたのすべての所でパンを乏しくした。

それでも、あなたがたはわたしに帰らなかった」と

主は言われる。

七 「わたしはまた、刈入れまでなお三月あるのに

雨をとどめて、あなたがたの上にくださず、

この町には雨を降らし、

かの町には雨を降らさず、

この畑は雨をえ、

かの畑は雨をえないで枯れた。

八 そこで二つ三つの町が

一つの町によるめいて行つて、

水を飲んでも、飽くことができなかった。

それでも、あなたがたはわたしに帰らなかった」と

主は言われる。

九 「わたしは立ち枯れと腐り穂とをもって

あなたがたを撃ち、あなたがたの園と、ぶどう畑とを荒した。いちじくの木とオリブの木とは、いなごが食った。それでも、あなたがたはわたしに帰らなかった」と主は言われる。

二〇「わたしはエジプトにしたように、あなたがたのうちに疫病を送り、つるぎをもってあなたがたの若者を殺し、あなたがたの馬を奪い去り、あなたがたの宿営の臭気を上らせて、あなたがたの鼻をつかせた。それでも、あなたがたはわたしに帰らなかった」と主は言われる。

二一「わたしはあなたがたのうちの町を、神がソドムとゴモラを滅ぼされた時のように滅ぼしたので、あなたがたは炎の中から取り出された燃えさしのようであった。それでも、あなたがたはわたしに帰らなかった」と主は言われる。

二二「それゆえイスラエルよ、

わたしはこのようにあなたに行う。わたしはこれを行うゆえ、イスラエルよ、あなたの神に会う備えをせよ。」

二三見よ、彼は山を造り、風を創造し、人にその思いのいかなるかを示し、

また、あけぼのを変えて暗やみとなし、地の高い所を踏まれる者、その名を万軍の神、主と言う。

第五章 イスラエルの家よ、わたしが悲しみの歌をもって、あなたがたについて宣べるこの言葉を聞け、

二「おとめイスラエルは倒れて、

また起き上がらず、彼女はおのれの地に投げ倒されてこれを起す者がない。」

三主なる神はこう言われる、

「イスラエルの家では、千人出た町は百人残り、百人出た町は十人残る。」

四主はイスラエルの家にこう言われる、

「あなたがたはわたしを求めよ、そして生きよ。」

五 ベテルを求めな、  
ギルガルに行くな。

ペエルシバにおもむくな。

ギルガルは必ず捕えられて行き、

ベテルは無に帰するからである。

六 あなたがたは主を求めよ、そして生きよ。

さもないと主は火のように

ヨセフの家に落ち下られる。

火はこれを焼くが、

ベテルのためにこれを消す者はひとりもない。

七 あなたがた、公道をにがよもぎに変え、

正義を地に投げ捨てる者よ。

八 プレアデスおよびオリオンを造り、

暗黒を朝に変じ、

昼を暗くして夜となし、

海の水を呼んで、地のおもてに注がれる者、

その名は主という。

九 主は滅びをたちまち強い者に臨ませられるので、

滅びはついに城に臨む。

一〇 彼らは門にいて戒める者を憎み、

眞実を語る者を忌みきらう。

二 あなたがたは貧しい者を踏みつけ、

彼から麦の贈り物をとるゆえ、

あなたがたは切り石の家を建てても、

その中に住むことはできない。

美しいぶどう畑を作っても、

その酒を飲むことはできない。

三 わたしは知る、あなたがたのとは多く、

あなたがたの罪は大きいからである。

あなたがたは正しい者をしえたげ、まいたいを取り、

門で貧しい者を退ける。

四 それゆえ、このような時には賢い者は沈黙する、

これは悪い時だからである。

五 善を求めよ、悪を求めな。

そうすればあなたがたは生きることができる。

またあなたがたが言うように、

万軍の神、主はあなたがたと共におられる。

六 悪を憎み、善を愛し、門で公義を立てよ。

万軍の神、主は、あるいは

ヨセフの残りの者をあわれまれるであろう。

七 それゆえ、主なる万軍の神、

主はこう言われる、

「すべての広場で泣くことがあるう。」

すべてのちまたで人々は

『悲しいかな、悲しいかな』と言う。

また彼らは農夫を呼んできて嘆かせ、

巧みな泣き女を招いて泣かせ、

「七またすべてのぶどう畑にも泣くことがあるう。」

それはわたしがあなたがたの中を

通るからである」と主は言われる。

「八わざわいなるかな、主の日を望む者よ、

あなたがたは何ゆえ主の日を望むのか。

これは暗くて光がない。

「九人がししの前を逃れてもくまに出会い、

また家にはいつて、手を壁につけると、

へびにかまれるようなものである。

「一〇主の日は暗くて、光がなく、

薄暗くて輝きがないではないか。

「二わたしはあなたがたの祭を憎み、かつ卑しめる。

わたしはまた、あなたがたの聖会を喜ばない。

「三たといあなたがたは燔祭や素祭をささげても、

わたしはこれを受けいれない。

あなたがたの肥えた獣の酬恩祭は

わたしはこれを顧みない。

「三あなたがたの歌の騒がしい音を

わたしの前から断て。

あなたがたの琴の音は、わたしはこれを聞かない。

「四公道を水のように、

正義をつきない川のように流れさせよ。

「五イスラエルの家よ、あなたがたは四十年の間、荒

野でわたしに犠牲と供え物をささげたか。三かえつてあ

なたがたの王シクテをにない、あなたがたが自分で作っ

たあなたがたの偶像、星の神、キウンをになった。二七そ

れゆえわたしはあなたがたをダマスコのあなたに捕え移

す」と、その名を万軍の神となえられる主は言われる。

## 第 六 章 「わざわいなるかな、

安らかにシオンにいる者、

また安心してサマリヤの山にいる者、

諸国民のかしらのうちの著名な人々で、

イスラエルの家がきて従う者よ。

「二カルネに渡って見よ。

そこから大ハマテに行き、

またペリシテびとのガテに下って見よ。

「三彼らはこれらの国にまさっているか。

彼らの土地はあなたがたの土地よりも大きいか。

「三あなたがたは災の日を遠ざけ、

強暴の座を近づけている。

「四わざわいなるかな、みずから象牙の寝台に伏し、



長いすの上に身を伸ばし、

群れのうちから小羊を取り、

牛舎のうちから子牛を取って食べ、

五 琴の音に合わせて歌い騒ぎ、

六 ダビデのように楽器を造り出し、

鉢をもつて酒を飲み、

いとも尊い油を身にぬり、

ヨセフの破滅を悲しまない者たちよ。

七 それゆえ今、彼らは捕われて、

捕われ人のまっ先に立つて行く。

そしてかの身を伸ばした者どもの騒ぎはやむであろう。

主なる神はおのれによって誓われた、

(万軍の神、主は言われる、)

「わたしはヤコブの誇を忌みきらひ、

そのもろもろの宮殿を憎む。

わたしはこの町とすべてその中にいる者を渡す」。

九 一つの家に十人の者が残っていても、彼らは死に、

〇そしてその親戚、すなわちこれを焼く者は、骨を家か

ら運びだすために、これを取り上げ、またその家の奥に

いる者に向かつて、「まだあなたと共にいる者があるか」

と言ひ、「ない」との答がある時、かの人はまた「声を出

すな、主の名をとなえるな」と言うであろう。

二 見よ、主は命じて、

大きな家を撃つて、みじんとなし、

小さな家を撃つて、切れ切れとされる。

三 馬は岩の上を走るだらうか。

人は牛で海を耕すだらうか。

ところがあなたがたは公道を毒に変じ、

正義の実をにがよもぎに変じた。

四 あなたがたはロデバルを喜び、

「われわれは自分の力で

カルナイムを得たではないか」と言う。

五 それゆえ、万軍の神、主は言われる、

「イスラエルの家よ、

見よ、わたしは一つの国民を起して、

あなたがたに敵対させる。

彼らはハマテの入口からアラバの川まで

あなたがたを悩ます」。

第七章 一 主なる神はこのようにわたしに示さ

れた。見よ、二番草のはえ出る初めに主は、いなごを造

られた。見よ、その二番草は王の刈った後に、はえたも

のである。二そのいなごが地の青草を食い尽した時、わ

たしは言った、「主なる神よ、どうぞ、ゆるしてください。」

ヤコブは小さい者です、

どうして立つことができませんよう。」

三 主はこのことについて思いかえされ、

「このことは起さない」と主は言われた。

四 主なる神はこのようにわたしに示された。見よ、主なる神はさばきのために火を呼ばれた。火は大淵を焼き、また地を焼こうとした。五 その時わたしは言った、

「主なる神よ、どうぞ、やめてください。」

ヤコブは小さい者です、

どうして立つことができませんよう。」

六 主はこのことについて思いかえされ、

「このこともまた起さない」と主なる神は言われた。

七 また主はわたしに示された。見よ、主は測りなわをもって築いた石がきのの上に立ち、その手に測りなわをもっておられた。八 そして主はわたしに言われた、「アモスよ、あなたは何を見るか。」「測りなわ」とわたしが答えると、主はまた言われた、

「見よ、わたしは測りなわを

わが民イスラエルの中に置く。

わたしはもはや彼らを見過ごしにしない。

九 イサクの高き所は荒され、

イスラエルの聖所は荒れはてる。

わたしはつるぎをもって  
ヤラベアムの家に立ち向かう。」

一〇 時にベテルの祭司アマジヤは、イスラエルの王ヤラベアムに人をつかわして言う、「イスラエルの家のただ中で、アモスはあなたにそむきました。この地は彼のものもろの言葉に耐えることができません。

二 アモスはこのように言っています、

『ヤラベアムはつるぎによって死ぬ、

イスラエルは必ず捕えられて行って、

その国を離れる』と。

三 それからアマジヤはアモスに言った、「先見者よ、行ってユダの地にのがれ、かの地でパンを食べ、かの地で預言せよ。」「しかしベテルでは二度と預言してはならない。ここは王の聖所、国の宮だから。」

四 アモスはアマジヤに答えた、「わたしは預言者でもなく、また預言者の子でもない。わたしは牧者である。わたしはいちじく桑の木を作る者である。」「五」ところが主は群れに従っている所からわたしを取り、『行って、わが民イスラエルに預言せよ』と、主はわたしに言われた。

六 それゆえ今、主の言葉を聞け。

あなたは言う、

『イスラエルに向かって預言するな、

イサクの家に向かって語るな』と。

「七 それゆえ、主はこう言われる、  
『あなたの妻は町で遊女となり、

あなたのむすこ、娘たちはつるぎに倒れ、  
あなたの地は測りなわで分かれたる。

そしてあなたは汚れた地で死に、

イスラエルは必ず捕えられて行って、  
その国を離れる』。

第八章 主なる神は、このようにわたしに示

された。見よ、ひとかごの夏のくだものがある。主は  
言われた、「アモスよ、あなたは何を見るか」。わたしは  
「ひとかごの夏のくだもの」と答えた。すると主はわたし  
に言われた、

「わが民イスラエルの終りがきた。

わたしは再び彼らを見過ごしにしない。

三 その日には宮の歌は嘆きに変り、

しかばねがおびただしく、

人々は無言でこれを至る所に投げ捨てる」と  
主なる神は言われる。

四 あなたがた、貧しい者を踏みつけ、

また国の乏しい者を滅ぼす者よ、

これを聞け。

五 あなたがたは言う、

「新月はいつ過ぎ去るだろう、

そうしたら、われわれは穀物を売ろう。  
安息日はいつ過ぎ去るだろう、

そうしたら、われわれは麦を売り出そう。

われわれはエバを小さくし、シケルを大きくし、

偽りのはかりをもって欺き、

六 乏しい者を金で買い、

貧しい者をくつ一足で買いとり、

また、くず麦を売ろう」。

七 主はヤコブの誇をさして誓われた、

「わたしは必ず彼らのすべてのわざを

いつまでも忘れない。

八 これがために地は震わないであろうか。

地に住む者はみな嘆かないであろうか。

地はみなナイル川のようにわきあがり、

エジプトのナイル川のようにみなぎって、

また沈まないであろうか」。

九 主なる神は言われる、

「その日には、

わたしは真昼に太陽を沈ませ、

白昼に地を暗くし、

一〇 あなたがたの祭を嘆きに変らせ、

あなたがたの歌をことごとく悲しみの歌に変らせ、

## 第

すべての人に荒布を腰にまとわせ、  
すべての人に髪をそり落させ、  
その日を、ひとり子を失った喪中のようにし、  
その終りを、苦い日のようにする」。

二主なる神は言われる、  
「見よ、わたしがききさんをこの国に送る日が来る、

それはバシのききさんではない、

水にかわくでもない、  
主の言葉を聞くことのききさんである。

三彼らは海から海へさまよい歩き、

主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、  
しかしこれを得ないであろう。

三その日には美しいおとめも、  
若い男もかわきのために氣を失う。

四かのサマリヤのアシマをさして誓い、

『ダンよ、あなたの神は生きている』と言ひ、また  
『ベエルシバの道は生きている』と言ひ者どもは

必ず倒れる。再び起きあがることはない」。

九章 わたしは祭壇のかたわらに立ってお

られる主を見た。

主は言われた、

「柱の頭を打って、敷居を震わせ、

これを打ち砕いて、

すべての民の頭の上に落ちかからせよ。  
その残った者を、わたしはつるぎで殺し、  
そのひとりも逃げおおす者はなく、  
のがれうる者はない。  
二たとい彼らは陰府に掘り下つても、  
わたしの手はこれをそこから引き出す。  
たとい彼らは天によじのぼつても、  
わたしはそこからこれを引きおろす。  
三たとい彼らはカルメルの頂に隠れても、  
わたしはこれを捜して、そこから引き出す。  
たとい彼らはわたしの目をのがれて、  
海の底に隠れても、  
わたしはへびに命じて、その所でこれをかませる。  
四たとい彼らは捕われて、その敵の前に行つても、  
わたしはその所でつるぎに命じて、これを殺させる。  
わたしは彼らの上にわたしの目を注ぐ、  
それは災のためであつて、幸のためではない。  
五万軍の神、主が地に触れられると、地は溶け、  
その中に住む者はみな嘆き、  
地はみなナイル川のようにわきあがり、  
エジプトのナイル川のようにまた沈む。  
六主はご自分の高殿を天に築き、  
大空の基を地の上にすえ、  
海の水を呼んで、地のおもてに注がれる。



その名は主となえられる。

主は言われる、

「イスラエルの子らよ、

あなたがたはわたしにとって

エチオピアびとのようではないか。

わたしはイスラエルをエジプトの国から、

ペリシテびとをカフトルから、

スリヤびとをキルから導き上ったではないか。

見よ、主なる神の目は

この罪を犯した国の上に注がれている。

わたしはこれを地のおもてから断ち滅ぼす。

しかし、わたしはヤコブの家を

ことごとくは滅ぼさない」と主は言われる。

九「見よ、わたしは命じて、

人がふるいで物をふるうように、

わたしはイスラエルの家を万国民のうちでふるう。

ひと粒も地に落ちることはない。

一〇わが民の罪びと、すなわち

「災はわれわれに近づかない、

われわれに臨まない」と

言う者どもはみな、日つるぎで殺される。

二その日には、

すべての人が荒涼を翫びまわす。

わたしはダビデの倒れた幕屋を興し、  
その破損を繕い、そのくずれた所を興し、  
これを昔の時のように建てる。

三これは彼らがエドムの残った者、

およびわが名をもって呼ばれるすべての国民を

所有するためである」と

この事をなされる主は言われる。

四主は言われる、

「見よ、このよつな時が来る。

その時には、耕す者は刈る者に相継ぎ、

ぶどうを踏む者は種まく者に相継ぐ。

もろもろの山にはうまい酒がしたり、

もろもろの丘は溶けて流れる。

五わたしはわが民イスラエルの幸福をもとに返す。

彼らは荒れた町々を建てて住み、

ぶどう畑を作つてその酒を飲み、

園を作つてその実を食べる。

六わたしは彼らをその地に植えつける。

彼らはわたしが与えた地から

再び抜きとられることはない」と

あなたの神、主は言われる。

七

すべての民の地の土は荒涼を翫びまわす。